

ゆりかご

2023年7月号

vol.18

通信

〒989-3126 宮城県仙台市青葉区落合4丁目3-17 宮城県立こども病院 ボランティアゆりかご広報委員会



「ゆりかご」に寄せて

活動の姿に多くの支援感じ

こども病院院長 呉 繁夫

日頃よりこども病院のボランティア活動にご尽力頂きありがとうございます。新型コロナウイルスへの対応が、5月8日より季節性インフルエンザと同じ5類となり、3年間に渡り、こども病院で実施を余儀なくされた様々な行動規制が大きく緩和されました。

これに伴い、病院ボランティアさんが活動されている様子を病院内や庭園で拝見す

る機会が増し、こども等と笑顔で接するお姿にこちらまで嬉しい気持ちになります。先日、ボランティ



ア・ハウスにもお邪魔する機会があり、様々な装飾・掲示物の作成など病院では見ることが出来ない様子を見ることが出来ました。病院ボランティア活動の価値はその結果のみならず、その活動の姿が入院や通院されているお子さんやそのご家族の目に留まり、「多くの人達が支援している病院なんだ」と感じて頂けることにあると改めて認識しています。

今後とも、こども病院の運営にご理解ご協力をいただければ幸いです。

4年ぶりの芸術祭



ボランティアゆりかご20周年、誠におめでとうございます。宮城のこども病院が産声を上げて以来、職員と一緒に病院を育て、子どもたちとご家族を見守って下さった皆様に心から感謝申し上げます。

2020年からの3年間は思うような活動ができず、病院ボランティアの存続すら危ぶまれる日々が続きました。ようやくこの春、ボランティアさんの優しい笑顔や温かい声かけが院内に戻り、「ああようやくコロナ禍が明けたのだな」と実感しています（まだ終息していませんけどね）。

2019年に初めて開催した「こども病院芸術祭」も4年ぶりに復活させる予定ですので、ボランティア20周年祭とコラボして、11月には開院20周年を盛大にお祝いしましょう。3年間のストレスを吹き飛ばすべく、ここからはド派手に行くぜ！



成育支援局長 虻川 大樹

20周年 に向けて



せんだいハウスは、今秋、こども病院とともに20周年を迎えます。病院との連携は、オープン前からとなります。初代ボランティアコーディネーターの寛さんと、当時のハウスマネージャーがボランティアさんと一緒にの運営を目指し、いろいろと相談しながらスタートしたと聞いています。

20年経ったいま、病院にとってもハウスにとっても、ボランティアさんは大きな存在です。ハウスは、ボランティアさんの声かけや様々な活動により、ご家族に安心して過ごしていただける温かな第二のわが家となっています。これからも、病院とハウス、連携しながら子どもたちやご家族をサポートしていきたいと思えます。引き続きどうぞよろしくお願い致します。

ドナルド・マクドナルド・ハウス せんだい
ハウスマネージャー小松 州子

ボランティア祭 実行委員

高瀬 和子	月曜(午後)	図書
中辻 晶子	火曜(午後)	プレイルーム
大瀧ツネヨ	水曜(午前)	総合案内
石田 和子	水曜(午前)	図書
丸山 康子	木曜(午前)	総合案内
山崎 美幸	木曜(午前)	図書
西尾 裕子	水木(午前)	イベントアート

ボランティア祭は11月8日～10日開催

今後の活動予定

令和5(2023)年度

7月21日(金)	新規募集のための研修会
未定	登録証授与式
8月4日(金)	夏祭り手伝い
9月	中間振り返り
11月8日(水) ～10日(金)	こども病院芸術祭2023 & ボランティア20周年祭
12月	職員とボランティアの懇談会
2月(令和6年)	ボランティア活動時間感謝状贈呈
未定	ボランティア研修会

まほうの広場コンサート・作品展示・バザー・お茶会・記念講演など

つなぐ おかえりなさい!

2020年3月4日、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言発令のためボランティア活動休止から3年余り、私がボランティアコーディネーターとなって3年目の春に、漸くほとんどのボランティアさんと対面することができました。本当にうれしく、そしてほっとしています。「おかえりなさい、ボランティアさん!」



この間「ボランティア通信」(第1号~第14号)を作成し、コロナ禍での入院中の子ども達の様子をお伝えしてきましたが、これからはボランティアさんが子ども達と一緒に遊んだり、優しく見守ったり、ご家族の話に耳を傾けていたり...そんな景色を想像するだけでうれしくて、“対面っていいなあ”って心から思えます。

今年はこども病院開設とともにボランティア活動が始まって20年、11月にはボランティア祭&芸術祭を開催します。コロナから解放され思いっきり楽しいイベントにするために、ご協力よろしくお願ひいたします。

大町 千鶴(ボランティア・コーディネーター)

どんぐり王国



私は、主に木の実細工を展示しています。里山観察会で子どもたちと一緒に木の実細工を作ったことがきっかけで、木の実に取りつかれました。展示品の交換の都度、仲間の作品を眺めては、素晴らしいアイデアに感心しています。年々閃きが少なくなって来ましたが、子どもさんが眺めている姿を見たり、コーディネーターや守衛さん、清掃員の方々などに励まされ、8年ほど続けて来れました。皆様もやってみませんか?

藤澤 達郎(スナークギャラリー)

活動紹介

おもちゃドクターって?



おもちゃドクターという人々は修理するおもちゃが多いと機嫌がよく、少ないと機嫌が悪い人々です。

修理するおもちゃが少ないと院長の私は、他のドクターからお叱りをうけます。子ども達の前で修理する時、「このおっさん本当に治せるのか」という目をしていますが、実際に治ると「このおっさんすげえ」というまなざしに変わります。

ドクターにとって至福の時です。

小田 仁 (おもちゃドクター・玩具修理)



連絡係

令和5年度

月曜	午前	齋藤 浩三	(総合案内)
	午後	鈴木 裕子	(図書)
火曜	午前	鈴木さつき	(図書)
	午後	高橋 賢司	(総合案内)
水曜	午前	佐橋 康子	(プレイルーム)
	午後	岡田美佐恵	(総合案内)
木曜	午前	丸山 康子	(総合案内)
	午後	高杉久美子	(図書)
金曜	午前	田仲 悦子	(図書)
	午後	佐藤 啓子	(図書)

運営委員

令和5年度

青沼 孝子	(月曜午後)	総合案内
高橋 賢司	(火曜午後)	総合案内
山崎 美幸	(木曜午前)	図書



◀コロナ禍3年間の活動推移(左図)。

※お話し会や玩具修理、スナークギャラリーと広報委員会等の人数はその他に分類した。

2018年度比で、20-21年度は6%台に減少した。22年は20%弱とやや回復して、部分的な活動を再開するも、緊急事態や県まん延防止措置で、即刻活動休止に追い込まれた。

登録ボランティア数は2018-22各年度末数値で234-228-208-203-169人。

23年は6月現在160で7月の新規募集研修参加申込み数が39名。



編集後記

★コロナ禍がようやく明けようとするいま、ほぼ全部門の活動再開がなかった ★前号から3年半ぶりの発行に広報一同、対面での編集会議に沸き立った。★題字を毛筆手書きに変更し雰囲気を一変した★が、さて評価やいかに?はらはらどきどきの日々。



『ももんちゃんとおそぼう』シリーズで第7回日本絵本大賞。宮城県生まれ。

ももんちゃん とよたかずひこ氏のおとうさん

記念講演 ボランティア20周年祭 11/8(水)

読み聞かせをやっている方は誰でも、温かくて、胸きゅんとする絵本に出会い、優しい気持ちになりました。

おちびちゃん達が一度はふれあった絵本!紙芝居!あの絵本作家のとよたかずひこさんが、こども達に会いに来ます。長年の夢が叶いました。

笠松 富美子(良い環境づくりお手伝い)